

東北海区沿岸水温予報(2011年)

海域	経過 (4~6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (9~11月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研七発表)	●6月沖合定線観測結果 水温は0m層はほぼ低め、50m層はかなり低め、100m層はやや低め、水塊深度はやや浅め、津軽暖流の東方への張り出しはかなり東偏。 ●沿岸定地水温 やや低めに推移	●沿岸定地水温 やや高めに推移している。	やや高めに推移する ものと思われる。	沿岸定地水温が、7月に入りやや高めに推移している。	6月に太平洋側の定置網でマダイが好漁であった。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表)	5月 表面: 距岸10海里内は、県南部5海里で極めて高いほかは、やや高い~高い。距岸10~50海里は県南部20海里で極めて高いほかは、平年並み~高い。 100m深: 距岸10海里内は平年並み~やや高い。距岸10~50海里は県北部50海里でやや低いほかは、平年並み~高い。 6月 表面: 距岸10海里内は、平年並み~やや高い。距岸10~50海里は県南部50海里で極めて高いほかは平年並み~高い。 100m深: 距岸10海里内は平年並み。距岸10~50海里は県南部50海里で極めて高いほかは平年並み~高い。	7月 表面: 距岸10海里内は、県中北部5海里で極めて高いほかは、やや高い~高い。距岸10~50海里は県中北部40海里で極めて高いほかは平年並み~高い。 100m深: 距岸10海里内は平年並み。距岸10~50海里は県北部10海里、県中北部40~50海里でやや低めのほかは、平年並み~やや高い。	【100m深9月】 距岸50海里内は平年並みと予測。なお津軽暖流の勢力が強勢な場合は、県北部海域および距岸10海里内は高めとなる。	岩手県100m深水温予測では8月の距岸50海里内は平年並みの見通し。	5~6月定置網で1尾2~3kgサイズのマダイ豊漁。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表)	観測が実施できないため予報を断念。				
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水七発表)	4月中旬~下旬: 親潮系冷水は県南部50海里以内の海域まで南下した。黒潮系暖水は沖合から波及し、冷水の南端付近では顕著な潮境が形成された。 5月: 親潮系冷水は本県南部30海里内の海域まで弱く波及した。黒潮系暖水は勢力は依然強く、前月同様、県南部海域では潮境がみられた。 6月: 親潮系冷水の勢力は極めて弱く、本県海域への目立った波及はみられなかった。黒潮系暖水は勢力を弱め、前月まで県南部海域にみられた潮境は解消した。 (3月以降、海洋観測未実施のため、沿岸水温については記載していない。)	親潮系冷水の勢力は弱い、県北部の50海里以内の海域に20℃以下の冷水が波及している。 黒潮系暖水は沖合から県南部海域の50海里以内へ波及している。 塩屋埼定線における50海里以内の100m深水温は「平年よりやや高め」。	「平年並み」~「平年よりやや高め」で推移する。	7月現在、親潮は北偏傾向、黒潮統流は南偏傾向にあることから親潮、黒潮とも弱い海況とみられる。また、三陸沿岸には暖水塊が分布していることから、親潮系冷水の南下は弱く、現在の海況が当面継続するとみられる。	3月11日の震災以降、沿岸漁業は再開されていないこと、沿岸定線観測が定期的には実施できないことから、漁況、海況の特異現象は把握できていない。

<p>常磐南部～鹿島灘(茨城県沿岸; 茨城水試発表)</p>	<p>4月:黒潮流路は月を通して本県沖を北上傾向で推移して、それに伴い断続的に黒潮系暖水が波及した。強い潮目が本県と福島県との間に形成された(海洋観測は東日本大震災の影響で中止)。</p> <p>5月:黒潮系暖水が月を通して強く波及して、水温は全域かつ深層まで「高め」となった。黒潮流路は4月末から5月上旬にかけて蛇行が東進した。また、5月下旬には本県沖を北上していた黒潮はやや南に南下した。</p> <p>表面水温:14.5℃～20.1℃ 「やや低い」～「高い」 100m深水温:12.4℃～17.0℃ 「やや低い」～「極めて高い」</p> <p>6月:上旬は沿岸域に黒潮系暖水の影響が残り水温は「高め」となった。一方で、北部沖合域を中心にして黒潮系暖水の影響が弱まり、北方から海水が流入したため水温は前月に比べて大幅に降温して「平年並み」となった。犬吠埼沖の黒潮流路は南北離岸変動がみられた。</p> <p>表面水温:16.7℃～22.6℃ 「やや低い」～「高い」 100m深水温:7.3℃～19.4℃ 「やや低い」～「極めて高い」</p>	<p>上旬は、鹿島以北は黒潮系暖水の影響を受けて「平年並み～高め」、犬吠埼は黒潮流路が南偏していることから「低め」となった。犬吠埼沖の黒潮流路は離岸傾向で推移した。</p> <p>表面水温:17.8℃～23.1℃ 「低い」～「極めて高い」 100m深水温:9.0℃～14.2℃ 「極めて低い」～「高い」</p>	<p>概ね「平年並み」～「高め」で推移する。</p>	<p>①気象庁の1986年～2011年の7月上旬の旬平均海面水温を用いて、北緯35度以北かつ東経145度以西の海域において20℃以上の広さを計測したところ、2011年の7月上旬の広さは、目に大きくなった。また、気象庁によれば海面の水温偏差は三陸～常磐海域にかけて著しい正偏差となっており、このことは、東北～常磐海域は北上暖水の勢力が強く、沿岸域へ暖水が波及しやすい状況にあると</p> <p>②気象庁によれば、親潮の南限位置は7月上旬の親潮第1分枝は北緯38度、東経146度と推測している。沿岸の親潮第1分枝が南下しておらず、また、青森県沖合の北緯41度、東経144度分付近に暖水塊が位置しており、沿岸方向への南下を阻んでいる。</p> <p>③7月上旬に海洋観測で取得した水温を用いて自己回帰分析を実施した。その結果、9月上旬までは「平年並み～高め」で推移すると予測された。</p> <p>④気象庁の予測モデルによれば、7月上旬から8月上旬までの水温は昇温傾向と予測している。また、海洋観測の平年値と比較した結果、「平年並み～高め」で推移すると考えられる。</p> <p>⑤気象庁によれば、7月～9月の本県の気温は高めに推移すると予測している。このことから海面付近の水温も「高め」で推移すると考えられる。</p>	<p>①3月11日に発生した東日本大震災及びそれに伴う大津波により沿海地区の水産関連施設の被害を被った。5月27日現在、被害総額は660億円程度と試算されている。</p> <p>②4月1日以降に本県北部の高萩市沖及び北茨城市沖で採取したコウナゴから暫定規制値を超える放射性物質が検出された。これを受けて県内の漁業関係者でつくる県漁業関係震災対策本部は、4月30日に今期のコウナゴ漁の操業を行わないことを決定した。6月30日現在、コウナゴ以外では暫定規制値を超えた魚種は確認されていない。</p> <p>③県による放射線モニタリング調査結果を受けて、4月下旬以降から底曳網漁業や船曳網漁業が操業を開始したが、6月中旬から、船曳網漁業は漁獲物にコウナゴが混獲することから、6月30日現在、県全域で操業を中止している。</p> <p>④北部海区のまき網漁業で2月～5月にかけて、マイワシ単体(小羽(MOVE)によれば、7月上旬～中羽(約12～15cm))で約2万2千トン水揚げされた。マイワシ単体でこのように大量に漁獲したのは平成23年以来10年ぶりである(ここ10年間は他魚種との混獲が主体であった)。</p> <p>⑤本県の今年6月のヤリイカの漁獲量は42,318kgで、平成9年以降の過去14年間の最大漁獲量が3,259kgで、平均漁獲量が544kgであることから、著しく多かった。</p>
--------------------------------	--	---	----------------------------	---	---

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い(20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並み(40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い(20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い(7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～